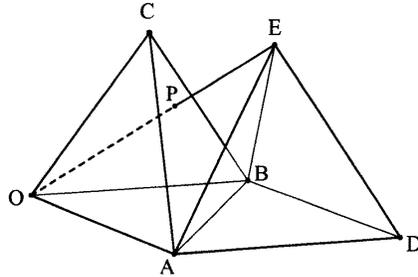


過去問めぐり | 金沢医の正四面体

【1】2021 金沢医科大学 後期医

図のような、1辺の長さが1である2つの正四面体OABC, ABDEがある。ただし、4点O, A, B, Dは同一平面上にある。線分OEと△ABCの交点をP, 線分AEを2:1に内分する点をF, 線分OFと△ABCの交点をQとする。



(1) $\vec{OE} = \frac{\vec{OA} + \vec{OB} + \boxed{\text{リ}} \vec{OC}}{\boxed{\text{ル}}}$, $\vec{OP} = \frac{\boxed{\text{レ}}}{\boxed{\text{ロ}}} \vec{OE}$ である。

(2) $\vec{OF} = \frac{\boxed{\text{ワ}} \vec{OA} + \boxed{\text{ヲ}} \vec{OB} + \boxed{\text{あ}} \vec{OC}}{\boxed{\text{い}}}$, $\vec{OQ} = \frac{\boxed{\text{う}}}{\boxed{\text{えお}}} \vec{OF}$ である。

(3) 線分PQの長さは $\frac{\boxed{\text{か}} \sqrt{\boxed{\text{きく}}}}{\boxed{\text{けこ}}$ である。

(4) △PQFと△PEFの面積を最も簡単な整数比で表すと $\triangle PQF : \triangle PEF = \boxed{\text{さ}} : \boxed{\text{しす}}$ である。

【2】2019 金沢医科大学 後期医

図1のように、 $OA=2$ 、 $OB=1$ 、 $\angle BOA=60^\circ$ である平行四辺形OACBにおいて、 OA の中点を M とし、 BC の中点を N とする。 NA と OC の交点を D とし、直線 BD と直線 AC の交点を E とするとき、

$$\overrightarrow{OD} = \frac{\boxed{\text{フ}}}{\boxed{\text{ヘ}}} \overrightarrow{OA} + \frac{\boxed{\text{ホ}}}{\boxed{\text{マ}}} \overrightarrow{OB} \text{ であり、 } \overrightarrow{OE} = \overrightarrow{OA} + \frac{\boxed{\text{ミ}}}{\boxed{\text{ム}}} \overrightarrow{OB} \text{ である。}$$

次に、この平行四辺形を線分 BM 、 MN 、 NA で折り曲げて図2のような1辺の長さが1の正四面体を作る。ただし、2点 A 、 O が重なった点を P とし、2点 B 、 C が重なった点を Q とする。正四面体 $PQMN$ において、

$$MD = \frac{\sqrt{\boxed{\text{メ}}}}{\boxed{\text{モ}}}, \quad \cos \angle MDQ = \frac{\boxed{\text{ヤ}}}{\boxed{\text{ユヨ}}} \text{ である。また、四面体 } MDQE \text{ の体積は } \frac{\sqrt{\boxed{\text{ラ}}}}{\boxed{\text{リル}}} \text{ であり、点 } E \text{ から平}$$

面 MDQ に垂線 EH を下ろすとき、 $EH = \frac{\sqrt{\boxed{\text{レロ}}}}{\boxed{\text{ワヲ}}}$ である。

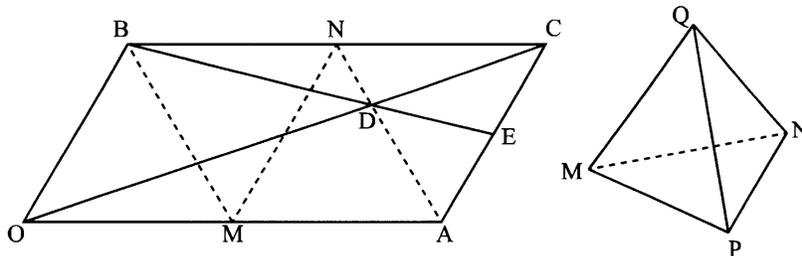


図1

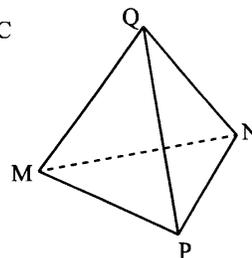


図2